

「私はがんになりません」 そう言いきれるのは2人に1人

がんは死因の第1位であり、男性では2人に1人、女性では3人に1人が、生涯、がんに罹患する可能性があると推定されています。

相談内容の秘密は厳守！

「がん」の悩み、話してみませんか？

心配ごとや不安な気持ち、治療や副作用についてなど、どなたでもお気軽にご相談できます。

①がん相談ホットライン

(電話相談)

看護師や社会福祉士が無料で相談に応じます

たとえば、「今後の生活のことが心配」「セカンドオピニオンとは？」

「抗がん剤の副作用が不安」「家庭でできることは？」など

☎03-3541-7830

毎日(祝日・年末年始を除く)

午前10時から午後6時まで

予約不要

おひとり20分まで

②専門医による無料相談

(電話相談・面談相談)

☎03-3541-7835

毎週月～金曜日(祝日を除く)

午前10時から午後5時まで

事前予約制

おひとり 電話20分

面接30分(会場:東京)

公益財団法人 日本対がん協会

http://www.jcancer.jp

☎03-3541-4771

がん検診を受け、がんの早期発見に努めることが大切です。町が実施しているがん検診については、毎年5月に全戸配布している「健診ガイド」(日野町のホームページにも掲載)をご確認いただくか、保健センターまでお問い合わせください。



滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

日野町 健診ガイド 検索

◆問い合わせ先 保健センター

☎0748-52-6574

感雑向綿

— 2020年2月 —

日野町長 藤澤 直広

綿向山の頂がうつすら雪化粧、穏やかな年明けを迎えました。今年は、東京オリンピック、パラリンピックの年です。日野町では5月29日、聖火リレーが行われます。役場南側の都市計画街路を松尾2区から村井に向かって1.4km 8人のランナーが走ります。

スキーモーグルの元オリンピック選手伊藤みきさんも走ります。伊藤さんのオリンピック出場を町をあげて応援し大いに盛り上がったことを思い出します。伊藤さんは遠征の合間に日野町に帰ってきては、役場や母校の日野小学校、日野中学校に顔を出していただき、子ども達や町民の皆さんに大きな希望と勇気を与えていただきました。また、レスリングの選手として活躍され、現在日野レスリングクラブ代表の北岡秀王さんも走ります。レスリングといえば園田新さんは東京オリンピック出場をめざされています。応援したいと思います。その他のランナーはスポンサーが選定します。現在、沿道

綿向山の頂の警備ボランティアを募集しています。公認のTシャツがもらえます。ふるって応募をお願いします。

聖火ランナーといえば前回の東京オリンピックの最終聖火ランナーは昭和20年8月6日広島生まれの坂井義則さんでした。オリンピックはスポーツの祭典とともに平和の祭典です。国際平和が広がることを期待したいと思います。

ところで、新年早々アメリカがイランの司令官を標的に攻撃し殺害しました。国連憲章にも違反するものです。イランも「報復攻撃」を行い、中東の緊張が高まりました。武力行使は憎しみと恨みの連鎖をうむだけです。冷静な外交交渉こそ大切です。

今年、戦後75周年の節目の年。日本が二度と戦争をしないと誓い、憲法のもとで国際社会に復帰しました。1964年、戦後復興と平和の誓いを新たにされた前回の東京オリンピックから50余年、日本は平和な国際社会を築くために憲法の趣旨をいかし、平和外交を行うことこそ果たすべき役割です。戦争のない平和な社会を築くために力を合わせたいと思います。

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。

温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字下駒月

大字下駒月は、南北都佐地区の中央部、砂川沿いの谷間に位置しています。古くは上駒月と一村で、「駒月」「狛月」などと記されました。「駒」「狛」の字が朝鮮半島の古代国家「高句麗」を意味することから、渡来人が開墾した村であると考えられています。

安楽寺に伝わる大般若経600巻のうち第7巻の奥書には「応徳3(1086)年閏2月29日 為結縁筆生惟宗定通書写也 奉施入江州狛月谷十禅師宮」とあります。「十禅師宮」は坂本日吉大社の17社のひとつであることから、平安時代の中頃には日吉大社領となっていたと考えられています。

中世に入ると、在地土豪の狛月氏が、儀俄氏一族として村を治めるようになりました。戦国時代には、蒲生氏当主の娘が水口の土

豪・美濃部氏に嫁ぎ、化粧料として

下駒月村を持参したという伝承が残っています。また、当地にある西照院には、美濃部氏の一族が下駒月村に移り住んで武島姓を名乗り、大永2(1522)年に当寺を建立したという記録が伝わり、16世紀の前半には武島氏が蒲生氏一族として頭角をあらわしたことがわかります(『日野町下駒月の歴史』)。徳川家康に仕えた武島茂幸は、その戦功により、旗本に取り立てられ下駒月の領地500石を賜りました(『寛政重修諸家譜』)。

江戸時代の下駒月村は甲賀郡に属し、領主は二人の旗本によって分割支配されました。村高707石のうち、約500石分は引き続き旗本武島氏が、残る約200石分を旗本水野氏が領有しました。

集落内には、安楽寺・西照院、日枝神社といった社寺仏閣のほか、古い祭礼や伝統行事、伝承などが数多

く残されています。

安楽寺の古仏

大字下駒月に残る文化財のうち、今回は国の重要文化財に指定されている安楽寺の坐像2躯をご紹介します。

安楽寺は、平安時代の中頃に天台寺院として小岳山に創建され、数度の盛衰を経て、集落中心部の現在地に移されました。現在は真言宗御室派仁和寺末の寺院となり、地元の人びとによって大切に管理されています。

① 阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来は、無限の光と命で人びとを極楽浄土の世界に導く仏で、11世紀に浄土教が盛んになるにつれて信仰されるようになりました。日本最古の作例は宇治平等院鳳凰堂の本尊ですが、安楽寺の仏像もほぼ同じ11世紀に、割劔作と呼ばれる技法

で組み立てられた古様を伝える秀作として知られています。

十体の菩薩が彫刻された光背には、永仁4(1296)年に修理されたことを示す墨書があり、貴重な歴史を伝えていきます。

② 薬師如来坐像

薬師如来は、左手に持った薬壺の力で病に苦しむ人びとを救う仏で、安楽寺の本尊となっています。

この仏像の胎内には一枚の木札が打ちつけられており、平家一門出身の高僧「忠快」が寄進者の一人として名を連ねており、像が作られた時期が平安時代末期の治承4(1180)年頃であることが判明するとともに、平安期の造像を示す一級の歴史資料としても注目されています。



安楽寺木造阿弥陀如来坐像



安楽寺木造薬師如来坐像